

嚥下（飲み込み）評価入院のご案内

当院では、飲み込みに障害のある方を対象に嚥下機能全般について評価を行い、お口から安全に食べられるようご本人様・ご家族様にアドバイスさせていただきます。

なお、検査は「嚥下造影検査」を含む予約入院（2泊3日予定）として行います。

食事の時、このような症状はありませんか？

- ・ほとんど毎回、「飲みこむ時」や「飲み込んだ後」にムセる
- ・食べた後に声を出すと「ゴロゴロとした音が一緒に聞こえる」
- ・食べ物が「いつまでも口の中やのどに残った感じがする」

私たちは普段、食べ物を口に運び、咀嚼しながらノドの奥の方に送り込み、“ゴクン”と飲み込んでいます。その時、食物や水分が誤って気管や肺の方に落ちて行かないように気管入口の蓋（喉頭蓋）が素早く閉まるのですが、そのタイミングが遅れたり弱かったりして食物が誤って気管の方に流れ込んでしまうことを「誤嚥」といいます。ムせて咳が出るのは、誤嚥を防ぐための正常な現象です。

飲み込む力が弱くなり、口の中やノドのくぼみに飲食物がたまりやすくなっていると、食べた後に誤嚥しやすくなります。誤嚥が続くと肺炎を起こすリスクが高くなります。

嚥下造影検査でどんなことが分かるのでしょうか？

検査用にバリウムを混ぜたゼリー・粥などを食べていただきます。その際、エックス線を使用して身体内部を透視しますので、わずかな誤嚥でも発見することができます。検査の中では食べやすい食物の形態や食事姿勢など、安全に食べるための工夫や注意事項などを検討します。所要時間は約30分で、当日の朝もふだん通りの食事が可能です。

スケジュールについて

検査前日には、言語聴覚士により口腔や嚥下に関する専門的な評価を行います。

検査後には、ご本人様・ご家族様（または必要により介護施設など）に、結果を踏まえ食事に関する注意事項などをお伝え致します。